

## 順天堂医院における初期臨床研修のコンピテンシー

一人で患者の診察ができるようになるには、以下の能力が必要です。

- 1) 主訴から身体所見をまとめ上げ、疾患の主座・領域を類推できる
- 2) 現病歴からこれまでの進展様式から臨床像をまとめることができる
  - ① 急性、亜急性、慢性の区別
  - ② 重症度（軽症、中等症、重症）の分類
- 3) 鑑別診断に必要な家族歴、曝露歴、渡航歴などを聴取し、所見を解釈することができる
- 4) 患者の全身状態の概要を評価することができる
  - ① バイタルサインを拾い上げて、全身状態を把握し、向こう 1 時間の行動方針を定めることができる
- 5) 基本的診察手技を駆使して、他覚的所見を拾い上げることができる
  - ① 視診（体型）、姿勢と歩行、黄疸、充血・発赤、腫脹）
  - ② 聴診・打診（心雑音から弁膜症の存在を指摘できる。呼吸音、声音振盪から、気道から肺の状態の推測、気胸や胸水の有無を判断する、腸雑音の鑑別ができる）
  - ③ 触診で基本的な兆候（筋性防御の評価、浮腫の評価、皮膚の局所所見）を拾い上げることができる
  - ④ 神経学的所見を拾い上げて、中枢性か末梢性かを鑑別することができる
    - a) 意識レベルの評価を客観的に行うことができる
    - b) 反射（末梢神経反射、病的反射）所見を拾い上げることができる
    - c) 運動所見（筋力低下、MMT、バレー兆候）を取り客観評価できるようにする
    - d) 眩暈（中枢性と末梢性）の鑑別ができる
    - e) 言語障害を評価できる
- 6) 診断のために必要な検査が取捨選択できる
  - ① 心電図（安静時、負荷心電図、ホルター心電図）を測定し読むことができる
  - ② 適切な放射線画像診断（単純 Xp、CT、MRI、アイソトープ、PET 等）の選択ができ、クリティカル所見を見落とさずに拾い上げることができる
  - ③ 超音波画像診断装置の基本的操作ができ、診断、治療に結びつけることができる
  - ④ 内視鏡検査（上部消化管、下部消化管、胆道系、気管支鏡）を予定し、診断・治療に繋げることができる
  - ⑤ 血液ガス分析
    - a) 安全に検体採取ができる
    - b) ガス分析所見を解釈して、病態が類推できるようになる
  - ⑥ 採血検査

- a) 血算、血液分画、白血球分画（左方移動）の結果の解釈ができる
- b) 生化学の解釈ができる
- c) 内分泌学的検査を選択し、結果を解釈できる
- ⑦ 培養検査
  - a) 感染臓器に基づき、適切な検体採取方法を選択して提出できる
  - b) 血液培養の提出と培養結果の判定が適切にできるようになる
- 7) 臨床経過と診察所見を以下の項目を含んだ形式でまとめ、手際よくプレゼンできるようになる（教授回診、グループ回診、診療依頼など）
  - ① 年齢・性別
  - ② 主訴
  - ③ 現病歴・特記事項
  - ④ 診察所見
  - ⑤ 検査所見
  - ⑥ 鑑別診断
  - ⑦ 治療方針
- 8) 治療のために必要な基本手技ができる
  - ① 気道確保や気管内挿管ができる
  - ② 酸素療法
    - a) カニューラやマスクを用いて、酸素投与を行うことができる
      - CO<sub>2</sub>ナルコーシスの発生に留意することができる
    - b) 人工呼吸器の基本設定ができる
      - 比較的安定した患者で、条件設定を変更できる
  - ③ 血圧コントロール
    - a) 薬剤を用いて、血圧コントロールが適切にできる
  - ④ 輸液ラインや、中心静脈ラインを確保できる
  - ⑤ 輸液・輸血の適切な選択ができる
  - ⑥ 血糖コントロール
    - a) 血糖測定ができる
    - b) 高血糖の際にスライディングスケールを立てて経過をみることができる
    - c) 低血糖の際の対応ができる
  - ⑦ 抗菌薬療法
    - a) 臨床経過と培養所見から、起炎菌を正しく推定することができる
    - b) グラム染色所見や臨床経過から適切な抗菌薬処方を選択することができる
  - ⑧ 栄養療法を指示することができる
    - a) 必要な栄養量を計算することができる
    - b) 病態に合わせて治療食（糖尿病食、腎臓病食、肝臓病食、周術期食）を選択することができる

- 三大栄養素のバランスや電解質制限や添加を指示することができる
- c) TPN 製剤や経管栄養をマニュアルで調製指示を出すことができる
- ⑨ ステロイド療法・免疫抑制剤の適切な使用ができる
  - a) ステロイド剤・免疫抑制剤の副作用について理解し、適切な使用ができる
- ⑩ 化学療法中の患者管理ができる
  - a) 急性期の全身管理ができる
  - b) 亜急性期（骨髄抑制期）の全身管理と合併症管理ができる
- ⑪ 基本的外科的手技ができる
  - a) 患部の消毒とガーゼ交換
  - b) 止血と縫合
  - c) 関節や骨折部位の固定
  - d) 体表面の膿瘍の切開排膿
  - e) 中心静脈カテーテルの適応を判断し、適切に挿入できる
- 9) 疼痛評価と管理
  - ① 疼痛を評価できる（疼痛スケール）
  - ② 適切な鎮痛剤を判断し安全に投与することができる
    - a) オピオイド鎮痛薬と NSAIDs、と鎮痛補助薬を使い分けることができる
- 10) 鎮静の実施と管理
  - ① 鎮静剤の必要性を判断できる。
  - ② 鎮静患者を適切にモニタリングできる
    - a) 鎮静のモニタリングについて理解し実践できる
  - ③ 鎮静の合併症対応ができる
    - a) 作用薬と拮抗薬の組み合わせを理解している
- 11) 指示を正しく出せるようになる
  - ① 検査指示
  - ② 治療指示
  - ③ 処方箋
  - ④ 指示箋（栄養、運動・理学療法）
- 12) ケアプランが立案できるようになる
  - ① 症例のプロブレムリストを作成することができる
  - ② クリニカル・プロブレムに合わせて治療計画を立案できる
- 13) カルテ記載を正しくできる
  - ① SOAP 形式による記録ができる
  - ② サマリーの提出
- 14) 病状説明とインフォームド・コンセントの取得ができる
  - ① 指導医の監督下で患者に説明ができる
- 15) 公式書類を書くことができる
  - ① 紹介状（他科診療依頼を含む）

- ② 診断書（死亡診断書を含む）
- ③ 入院療養計画書、退院療養計画書
- 16) 自分の専門外の疾患であった場合、あるいは自分の診療能力を超えることが予想された場合に、適切な専門家に紹介できる
- 17) 外来通院か、入院加療かを見極めることができる
  - ① 様子を見ていても良い状態か、緊急に処置・手術が必要な状態かを見極められる
- 18) 医療安全対策について理解し、安全に診療を行うことができる
  - ① インシデント・レポートで事故原因を分析し、提出できる
  - ② 院内の安全な診療のための講習会に参加していること
  - ③ 事故防止に留意して診療活動を行えること
- 19) 感染対策について理解し、安全に診療を行うことができる
  - ① 手指衛生を5つの場面で、適切なテクニックで実践できる
  - ② 針刺し防止策を実践しながら診療できる
  - ③ 患者や職員への交差感染の防止のために、体調管理に留意し、体調不良時には就業自粛の判断ができる
  - ④ 職業ワクチンの重要性を理解し、交差感染の防止に努めている